

9月に1ヶ月間、カンボジアでのインターンシッププログラムに参加させていただきました。私がこのプログラムに参加した理由は、元々海外に興味があり、海外でのインターンシップという経験は、なかなか出来ないことだと思ったからです。また、カンボジアという全く知らない土地で、1ヶ月暮らしてみることに興味も湧きました。しかし行く前までは、カンボジアの治安や食事について調べましたが、分からないことも多かったため、少し心配ではありました。

私は、国際協力NGO「FIDR」のカンボジアでの栄養教育事業に携わらせていただきました。私がFIDRを選んだ理由は、国際協力に興味があったからです。また、カンボジアでは栄養教育が全くなく、栄養バランスの知識がほとんどないという話を聞いて、FIDRがどのように栄養教育に携わっているか知りたかったからです。FIDRでは、今までカンボジアの小学校で使う、栄養教育の教科書や、食事バランスガイドを作成されてきました。カンボジアでは、栄養教育がされてきておらず、学校に大量のお菓子やジュースが売られています。そのため、子供達は幼い時から、甘いジュースやお菓子を食べてしまっています。子供だけでなく、学校の先生も栄養教育を受けてこなかったため、栄養に対する知識が全くありません。そのためFIDRの皆さんは、生徒への栄養教育はもちろん、学校の先生に対しても指導をしてきました。

私は今回、カンボジア人の皆さんに、日本の学校行事を紹介する仕事を任せていただきました。カンボジアの学校には、日本で行われているような、文化祭や体育祭などは全くありません。そこでFIDRでは、「食育DAY」という学校イベントを計画されていました。私は、食育DAYのイベントの実施に参考になるような日本の学校行事を、何度かプレゼンテーションしました。

まず初めに、カンボジアの学校の先生方に向けたプレゼンテーションをしました。ここでは、日本の文化祭や体育祭などが、いつから準備して、何の目的で行っているかを説明しました。何度もリハーサルを重ね、わかりやすく伝えるために、スタッフの方々から多くのアドバイスをいただき、作り直しました。発表の中には、動画を交えわかりやすくし、練習の時より上手く発表することができました。

次に、カンボジアの高校生に対して、食育DAYの実施に参考になるような、日本の学校行事と遊びについて紹介しました。ここでも同じように日本の文化祭等を紹介し、それに加えて、日本の子供たちがするゲームについても紹介しました。「福笑い」や「おしくらまんじゅう」など、ゲームのルールを教え、動画を見せた後に、実際に学生たちにやってもらいました。学生たちが、楽しみながら遊んでいるのが伝わってきたので、うれしかったです。

インターンシップ期間中、何度もプレゼンテーションをする機会があり、非常に勉強になりました。今まで英語でプレゼンテーションする機会はありませんでしたので、発表することに自信を持つことができました。

次に、学校に訪問する機会が何度かあったので、カンボジアの学校について紹介します。私が行った学校はすべて、FIDRのターゲット校で、FIDRにサポートをしてもらいながら、学校の環境改善をされてきました。以前は学校にごみがあふれていたそうですが、ごみの分別をして、生ごみはコンポストに集められ、学校の家庭菜園の肥料として使われていました。ペットボトルも分別して、リサイクル業者に回され、そこからお金を得ているそうです。保健室や、水のろ過機の設置など、FIDRの支援は多くありましたが、あくまでもFIDRはサポート役で、学校主体で改善していったそうです。学校の校長先生のお話も聞きましたが、「子供たちのためにどうにかしたい」、という思いがとても伝わってきて、その思いが学校全体を動かし、改善していったと思いました。

インターンシップに参加したことで、カンボジアの学校環境を自分の目で見ることができました。FIDRの支援はもちろんありますが、学校の先生方の強い思いにも心打たれました。現地に足を運ぶことができ本当に良かったと感じています。

インターンシップ以外でも、毎日スタッフの方と食べていた昼食では、現地のご飯をたくさん食べることができ、ローカルを感じることができました。最初は心配だった、カンボジアの生活もだんだん慣れていき、多くの人と関わることができました。海外インターンシップは、本当に貴重な経験だったと感じています。今回、このプログラムに参加して、自分自身が成長した面もありますが、英語力をもっと伸ばしたいという新たな目標も見つかりました。この目標に向けて、これから、より様々なことに挑戦し続けたいです。



学校行事についてプレゼンテーション



小学校の家庭菜園見学